

3 大鰐天然スギ・ヒバ混交保護林 における台風19号被害跡地の 植生回復状況について

大鰐営林署 小野寺 靖 久

1 はじめに

平成3年9月28日に青森地方を襲った台風19号は津軽のリンゴ地帯に大きな被害をもたらし、その惨状がテレビ、ラジオ、新聞等で大きく報道された。このリンゴ被害に隠れて目立なかったが、森林被害も金額にして25億円余に及んでおり、今もその復旧作業が続いている。

こうした森林被害の中で、当署の大鰐天然スギ・ヒバ混交保護林も33.36haのうち7.88ha、材積にして5,145m³の被害が発生した。この保護林は大径の天然スギ・ヒバが混交状態を呈する貴重なもので、大正5年国有林に保護林制度が発足して以来、一早く設定され一度も伐採されたことのない貴重な林分である。

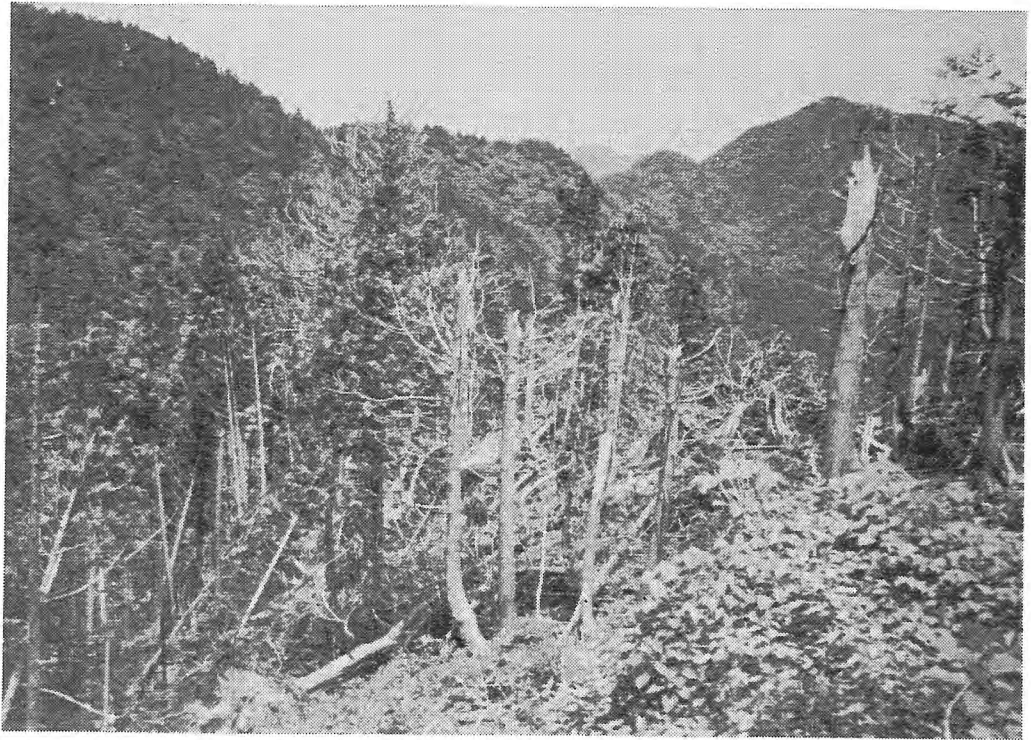
この7.88haの台風被害地の中で団塊状に被害のあった区域の中心に標準地を設定し、今後どのような遷移をへて森林が成林していくものか追跡調査をしたものであり、今回は台風被害後2年間の植生状況を取りまとめたので、第一報として報告するものである。

2 調査地及び調査方法

- (1) 調査地は東虹貝山国有林86林班ち小班内で、団塊状に被害があった区域の中心とした。(写-1参照)

◎ 86林班ち小班(保護林内)

○ 林 令	227年	
○ ha蓄積	750m ³	
○ 混交歩合	Aスギ	40%
	ヒバ	57%
	ソノタL	3%



写-1 被害区域内の状況



写-2 プロット内の状況

- (2) 林況調査プロット50m×50mを設定し、平成4年10月と平成5年7月に2回調査し、その中に大径の天然スギが5本、ヒバ稚樹2本が成立していた。(写-2参照)

<植生量>

平成4年10月：22科30種類

平成5年7月：19科33種類 (表-1参照)

表-1 代表的な植生

調査年月 植生 (科)	平成4年10月 22科30種類 (種)	平成5年7月 19科33種類 (種)	備 考
イラクサ科	—	3	ムカゴイラクサ
ウラボシ科	2	6	ミゾシタ外
ミズキ科	1	2	ヒメアオキ
キク科	3	4	モミジガサ外
クルミ科	—	1	サワグルミ
クマツヅラ科	—	2	クサギ
スミレ科	2	—	
イネ科	1	—	
スギ科	—	1	
ユキノシタ科	2	1	

表-1の他に、林況調査プロット内には2年目になって天然スギの稚樹が10本発生しており、大きいものでは苗高が30cmにもなっていた。また、既に発生していたヒバ稚樹にも3cmの生長が見られている。

3 まとめ

台風により、林況調査用のプロット内の上木が転倒し林分破壊があったことにより光条件が変化したことにくわえ、冬期の搬出ではあったが被害木の処理により地表の攪乱が発芽床の役割を果たしたことなどから、陽性の植生であるスギの発芽に大きな影響を与えたものと考えられる。

また、これらのスギは他の植生が密生していく中で、陰性の植生であるヒバと共にどのような変化をとげていくものか興味深いところであり、この調査の最大の目的でもある。

以上のことから、陽性の植生と陰性の植生とが互いに変化しながら成林するものと思われるが、現在のような天然スギ・ヒバの混交林になるのか、スギの純林またはヒバの純林になるのかは判断できない。

今後の推移は気の遠くなるような観察が必要で、歳月のかかるテーマではあるが、逐次調査し報告することとする。